

メディアの中の高校野球 ―新聞報道を中心に―

教科・領域教育専攻

生活・健康系コース（保健体育）

櫛木雄介

指導教員 木原資裕

1. 緒言

現在では「甲子園」という言葉は単に野球場を意味するだけでなく、野球以外のところでも使われている。たとえば、「俳句甲子園」、「まんが甲子園」、「ディベート甲子園」などである。しかも、その行事は甲子園球場で行われてはいない。「甲子園」という言葉の中に高校生が集う「聖地―最高の戦いの場」という意味が形成されていることは明らかである。

明治初期に外国人教師によって学校の中に持ち込まれたスポーツは、学校の課外活動として発達、組織化されるようになり、今日ではほとんどすべての中学・高等学校において運動部活動が行われている。その中でも高校野球は別格であり、豊かな資金と強固な組織力をもつ高野連（日本高等学校野球連盟）とともに朝日新聞社や毎日新聞社が春夏の甲子園球場での全国大会を主催している。さらに、その模様は全国ネットでNHKが全試合の生放送を行っている。

本研究は、メディアの中で高校野球がどのように扱われているかを実証的に明らかにしようとするものである。

2. 研究方法

高校野球に関する文献及びインターネットホームページからデータを収集するとともに、甲子園出場高校から甲子園出場に伴う寄付金の収支決算書類を入手し、検討した。

さらに甲子園での高校野球および高校総体が行われている2006年8月（1ヶ月間）の朝日・

徳島・読売新聞三紙のスポーツ記事面積をメジャーで測定し、全国高等学校野球選手権大会を軸に他のスポーツと比較・検討した。

また、過去12年間の朝日新聞縮刷版のテレビ欄8月分より、全国高等学校総合体育大会の放送時間を調べ、全国高等学校野球選手権大会と比較・検討した。

3. 結果と考察

1) 夏の野球選手権大会の誕生と発展

明治初期に外国人教師によって学校にもちこまれた野球は、競技中心に傾くことによって種々の問題が生じた。

そこで1911年に朝日新聞は、「野球と其（その）害毒」と題して、野球におぼれる選手や関係者を非難している。しかし、1915年に朝日新聞社は方針を転換し、大会を主催することになる。その理由は、非難するだけでは青少年を救えず、学生野球にふさわしい大会を組織し、正しい野球を指導することで人間形成に役に立てる方が意義あると考えたからである。やがて1978年になると地方大会の参加校が3000校、1990年の第72回大会には4000校を超え、入場者数も初めて90万人を超えた。そして現在でも甲子園での高校野球は国民的スポーツとして扱われている。

2) 甲子園が学校経営に与える影響

高校野球で甲子園に出場すると多額の寄付金が学校に集まっている。2006年の夏に甲子園に出場した四国のある公立校で約8800万円を集

めている。その中で甲子園関連に費やした資金は約 4300 万円で、差額約 4500 万円が学校に残る。また支出でも強化充実費で約 700 万円を計上し、ノックマシンやボールなど様々な用具一式を購入している。環境を整え、次回の甲子園出場を目指すことができる。この流れから学校は、資金がたくさん集まる上に学校の名前が全国に知れ渡り、生徒募集への多大な宣伝効果を生んでいる。これらのことから甲子園出場は学校経営に大きなメリットとなっている。

3) 主催側から見た甲子園大会開催による収入

甲子園出場校だけでなく、選手権大会そのものの中でも莫大な資金が動いている。たとえば 2008 年の第 90 回記念大会では、入場料収入だけで約 4 億 5600 万円である。高校生のスポーツにもかかわらず、わずか二週間足らずの大会でこの金額は大きい。また、発生した余剰金を高野連自身に積み立て、それに加えて少年野球の振興、学生野球協会、全国高校軟式野球選手権大会に毎年補助金を支援している。このことは、高野連や朝日新聞社だけではなく、周りの団体にも大きな影響を与えていることになる。その積み重ねが高野連の地位をより確固たるものにしている大きな要素と考えられる。

4) スポーツ記事面積からの新聞・テレビ報道の比較分析

夏の甲子園大会の主催者である朝日新聞社、地方紙である徳島新聞社、全日本職業野球連盟の結成の際に中心的な役割を担った読売新聞社ではスポーツ記事に何らかの特色があると考えられる。そこで夏の選手権大会を軸に三紙のスポーツ記事面積を比較した。そこには各新聞に記事の偏りがみられ、なるべく自社が手がけているスポーツを取り上げている。その中でも多少の変化はみられるものの、夏の甲子園大会は

どの新聞社でも上位を占めている。具体的に 2006 年 8 月分に夏の甲子園大会がスポーツ記事全体に占める割合として朝日が 41.6%、徳島が 17.3%、読売が 5.0%と各新聞紙の上位ベスト 3 の面積を占めている。それに対して同じ高校生の全国大会、全国高等学校総合体育大会にも関わらず、朝日新聞での取り扱いが 4.0%と極端に少ないこと分かる。またテレビの放送では高校野球の甲子園関連はNHK系列で全試合放送、朝日放送、サンテレビなどが放送しており、放送時間は 8888 分と高校総体が 602 分となり高校野球の甲子園関連が約 27 倍長く放送されている。

5) 特待生制度問題

これだけの注目もある高校野球は学校経営の戦略として能力が優れている選手を集め、宣伝効果などを期待しようとする。そこで特待生制度を利用し、野球憲章違反となる授業料免除などをして優遇していた。このことは高校野球だけではなく、他のスポーツまで影響を及ぼす問題となった。これは高校野球とそれ以外のスポーツが異なる組織に管轄されているということから、見解の相違が高野連と高体連の中でより大きな問題に発展していった。

4. 結語

高校野球は新聞各紙やNHKなどが甲子園で一生懸命頑張っている選手の姿を多く取り上げることで、人々から注目を集めている。また全国高等学校総合体育大会と比較してもその対応の差は明らかである。それだけになぜ高校野球だけが高野連という別組織で特別扱いが許されるのか。一高校のスポーツとしての高校野球の扱い方が本当に適切かどうかを問い直す必要があるかもしれない。